

とねっと

診療情報の共有化、診療所と中核病院の切れ目のない連携を目指して



とねっと使用イメージ

導入経緯

ネットワークを利用した患者情報の共有により医療リソース不足の解消を目指す

埼玉県は医療施設に従事する医師数・看護師数・医療施設数が全国で最も低い水準にあり、中でも利根保健医療圏は高齢化率が高い地域です。さらには、小児科救急医療体制に不備がある、特定の病院への患者集中による地域医療の機能不全、医療連携において使用される検査機器、高度医療提供機器の機能の劣化など医療リソース不足が深刻な問題となっていました。そのため、限られた人材や高度医療機器を最大限有効活用し、地域のかかりつけ医と中核病院が役割を分担しながら連携していくことが必要不可欠でした。

その課題を解決すべく、2010年に利根保健医療圏内の9つの市町、医師会、埼玉県加須・幸手保健所などで構成される「埼玉利根保健医療圏医療連携推進協議会」を設置。当時より存在する医療連携を、ネットワーク技術を利用しサポートしていこうとシステムの構築に着手しました。患者情報を連携することにより、地域連携クリティカルパスを実現する、「地域完結型医療」の実現へ向けた利根保健医療圏の取り組みを本格開始しました。

2011年には開発業者にNTTデータを選定して、地域医療連携ネットワークのシステムを実装。地域医療連携システム『とねっと』において、アストロステージ製【STELLAR】【Nazca】【STELLARNet】【STELLARReport】これら4つのアプリケーションを導入し、『とねっと』の地域医療連携において診療情報を共有するためのシステムとして運用をしています。

導入前の課題
Before

- 高齢化による医療リソース不足の解消
- 地域のかかりつけ医と中核病院の役割の分担



- とねっとの構築で登録者に適切な医療の提供が可能に
- ネットワークシステム導入により、各医療機関の情報共有が容易に

導入後の効果
After



地域における医療課題の解決を図るため、国が平成22年1月に採用を決定した「利根保健医療圏における地域医療再生計画」の実現に向け、平成22年7月「埼玉利根保健医療圏医療連携推進協議会」を設置し、「かかりつけ医カードと医療情報のネットワーク化による地域医療ネットワークシステム」の構築を図るための検討・協議を重ねました。この協議会では地域医療ネットワークシステム（愛称『とねっと』）を管理運営し、平成24年4月から試験運用、7月から本格使用を開始しました。

『とねっと』には中核病院、診療所、検査センターなど100施設以上が参加しており、登録住民・患者数は11000人を越えています。

とねっとは地域が一つの病院のように連携・協力して医療を行なうための診療基盤です。

導入地区：利根保健医療圏
行田市・加須市・羽生市・久喜市・蓮田市・幸手市
白岡市・宮代町・杉戸町



とねっと使用イメージ

導入システム

- DICOM 画像管理システム Nazca
- 診療情報統合システム STELLAR
- 地域連携システム STELLAR NET
- ドキュメント作成&管理システム STELLARReport

システム構成図

